

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りお作りいたしております。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子 俵屋吉富

本店 京都市上京区宝町通上立売上ル

電話 (075) 432-2211

烏丸店 京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 432-3101

圓明

平成三十年 夏号(第一一〇号)

大本山相国寺
相国会本部

暑中お見舞い申し上げます

平成三十年 盛夏

◆表紙写真

「緑鮮やかな境内参道」

相国寺の総門から真つ直ぐ北へ向かうと、赤松林を見て、
法堂と開山堂を結ぶ回廊をくぐり庫裏へ至る。

切妻の大庫裏は香積院（江戸時代）と呼ばれ、白壁と部材、
一段高い屋根の煙拔きがどっしりとした存在感を放っている。

撮影◎柴田明蘭氏



まるにくん
© 2018 相国寺

円山応挙筆「大瀑布図」が重要文化財に



この度、相国寺所蔵の円山応挙筆「大瀑布図」が新たに重要文化財に指定されました。
本図は、東京国立博物館に於いて「平成三十年 新指定 国宝・重要文化財」展
（四月十七日～五月六日）でお披露目展示されました。

詳しくは、89ページの『宝物拝見』をご覧ください。

平成二十九年十二月十一日

沼津 松蔭寺

「正宗国師白隠慧鶴禅師」二五〇年遠諱法要「嚴修

「駿河には過ぎたるものが二つあり

富士のお山に原の白隠」



境内より富士山を望む



白隠禅師250年遠諱法要で大導師を務めた有馬管長
(左は松蔭寺宮本圓明老大師)



境内にある白隠禅師の墓



見開いた眼が写実的な「白隠禅師坐像(沼津市指定文化財)」



境内に立てられた角塔婆

(詳細は、本文10ページを参照)
撮影◎西家 孝氏



U R L <http://www.shokoku-ji.jp>
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



目次

カラーグラビア◎	岡山山形拳筆「大瀑布図」が重要文化財に	1
◎	沼津 松蔭寺「正宗国師白隠慧鶴禅師二五〇年遠諱法要」	2
御挨拶	宗務総長 佐分宗順	6
松蔭寺 白隠禅師二五〇年遠諱法要	大通院 相国寺専門道場師家 小林玄德	10
仏道定款	大寺院 相国寺専門道場師家 小林玄德	13
特別寄稿「金閣寺の大根焚き」	植昭 長岡造園 長岡秀晃	16
相国寺の庭園(第四回) 方丈の庭園	上田 幸男	21
青春のページ	演劇塾 長田学舎 斉藤浩未	26
本山だより		37
坐禅会のご案内		48
教区だより		51
相国寺史編纂室だより		75
相国寺 秋の特別拝観		72
宝物拝見「大瀑布図」		88
「温故礼讃」百花繚乱・相国寺文化園		91
心のすがた		92

本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。



相国会総裁 有馬頼底
副総裁 佐分宗順
会長 片岡匡三
本部長 矢野謙堂
平成三十年盛夏

内局

管長	善光寺住職	佐分宗順
宗務総長	大光明寺住職	矢野謙堂
教学部長	普廣院住職	山木雅晶
財務部長	眞如寺住職	江上正道
財務・庶務部長	豊光寺副住職	佐分昭文
参務	光照寺住職	荒木文紹
承天閣美術館館長	養源院住職	平塚景堂
同 事務局長	長栄寺住職	鈴木景雲
同 参事	養源院副住職	平塚景山
同 執事	林光院住職	澤田宗泰
同 執事	是心寺住職	和田賢明

慈照寺執事	桂徳院住職	小出量堂
同 執事	慈照院副住職	久山哲永
宗務支所正副長		
第一教区	慈照院住職	久山隆昭
第二教区	竹林寺住職	牛江宗道
第三教区	見性寺住職	梶谷承忍
第四教区	善應寺住職	五十嵐祖傳
第五教区	眞乗寺住職	木下雅典
第六教区	本誓寺住職	延本輝典
第一教区	感應寺閑栖	芝原一三
第二教区	林光院住職(正)	澤田宗泰
第三教区	大光明寺住職(副)	矢野謙堂
第四教区	竹林寺住職(正)	牛江宗道
第五教区	相国寺派 庶務部長兼任	
第六教区	眞乗寺住職(正)	木下雅教
	圓福寺住職(副)	田中太真
	本誓寺住職(正)	延本輝典
	感應寺閑栖(正)	芝原一三

御挨拶



宗務総長 佐分宗順

本派寺院各位、檀信徒の皆様そして『円明』の読者の皆様、暑中お見舞い申しあげます。

本年前半期は、相国寺の宗制および法人規則の改正の素案がまとまり、本山評議会、宗制審議委員会等で議論いただき改正の準備が整いつつあります。本年中には評議会および宗会の決議と、認証の手続きが完了するようさらに作業を進めて参る所存です。

振り返れば、相国寺派宗制は昭和四十七年に諸処の機構を新たににして、昭和二十二年に定められた相国寺派宗制を大幅に修正整備し、併せて

相国寺派規則、相国寺規則の改正が行われ、現在の相国寺派宗制の礎ができました。その後昭和六十二年に特殊寺院の住職は管長が兼務することなど、教団の健全な運営を目指す一部改正がなされておりますが、以後様々な問題の改正を残しながらも諸規則の改正は行われておりませんでした。

大きく変わりつつある社会や政治情勢、又宗教状況に対応するためには、我々宗教団体も宗制や法人規則の体系を見直す必要があります、より健全な教団の運営を担保する改正が検討されて参りました。

平成十八年には事務局内で、相国寺規則研究の委員会を立ち上げ、相国寺顧問弁護士であった故福田浩氏より相国寺が抱えてきた諸問題の歴史を踏まえた指摘をいただきながら、新たに顧問弁護士として迎えた橋口玲氏とともに、規則改正の作業に取り組んで参りました。その成果は一部内部規則の充実によって実践して参りましたが、このたびより充実した健全な規則改正へとつなぐことができると信じております。

さらに適正な諸規則の運用を図るため、引き続き承天閣の規則、教化活

動委員会規則、僧侶の就業規則と倫理規定等の整備を敢行いたしたいと考えております。

また承天閣の所蔵する寺宝の整理、保存、管理体制の徹底に努め、現在承天閣の副館長として精力的に活躍いただいている高橋範子氏の協力を得て、所蔵禅文化の紹介講座の充実にも力を注ぎたいと考えております。

相国寺史編纂室の藤田和敏研究員が、相国寺の近現代の歴史資料を整理する過程で中間報告として発表した相国寺研究のこれまでの三回の連続講義をまとめ、法藏館から一般書籍として「近代化する金閣―日本仏教教団史講義」というタイトルで出版されました。まさにわが教団の近代史の一端を見ることが出来ます。

近現代の資料は散逸したり、廃棄されたりしているものも多いのですが、正の歴史も負の歴史もともに事実を事実として記録を残すことは、これからの教団の発展のために欠かせない重要な作業であります。我々は残された資料をできる限り発掘し、資料として残すことはもちろん、その

資料の分析、歴史的な評価をする作業を続けねばならないと思います。

ところで本年二〇一八年は明治改元一五〇年にあたります。日本の近代化の始まりである明治維新からちょうど一五〇年の節目に当たる年であることから、様々な歴史書が一般向けに出版されています。日本の近代化、明治維新とは何であったのか、統一された定義はないように思いますが、江戸から明治にかけての御一新の嵐の中で、神仏分離、廃仏毀釈という愚かな事態も起こりました。その影響は現在にも様々な形で影を落としています。日本の近代化とは何であったのか、又仏教界の近代化はどうだったのか。この節目の年に検証するよい機会であります。宗教から見た明治維新、近代化とは何であったのか、これからの宗教団体のあり方を見据えた研修の機会を持ちたいと思います。

引き続き相国寺派僧侶の皆様にはご研鑽いただき、檀信徒の皆様とともに、相国寺の発展の為にご尽力いただきますようお願いして、ご挨拶いたします。

松蔭寺 白隠禪師二五〇年遠諱法要

(巻頭カラー2ページ参照)

平成二十九年十二月十一日、松蔭寺(静岡県沼津市原・臨濟宗単立)において、「正宗国師白隠はくいん慧鶴えかく禪師二五〇年遠諱法要」が盛大かつ厳粛に厳修され、宮本圓明老大師(同寺住職)の拜請により、有馬頼底管長が法要の大導師を務めた。

東海道「原」の宿場町にある松蔭寺は、白隠禪師(幼名岩次郎)にとって門前に生家があり、また十五歳の時に同寺で得度、各地を行脚後に三十三歳で入寺し住職を務めた名刹である。また白隠は、東嶺圓慈とうれいえんじ禪師をはじめ多くの弟子を育てた。

当日は白隠禪師の御遷化(死去)から二五〇年の正当日であり、半齋法要は九拜式に続き、楞嚴呪行導りやうごんしゆどう、白隠禪師坐禪和讃、大悲呪などが諷誦された。

三島・龍澤寺後藤榮山老大師、静岡・臨濟寺阿部宗徹老大師、栗原妙心寺派宗務総長、森清範清水寺貫主をはじめ静岡県と各地の臨濟宗や各宗派の諸寺院より尊宿、関係寺院、縁故者、支援者、檀信徒など三〇〇名を超える



法要前日の席で挨拶する有馬管長

列席者があり、禪師の遺徳をしのんだ。

有馬管長は読経後の「垂戒すいかい」で、「私たちは白隠禪の末端に連なっているにすぎないが、平成から次の時代にかけて臨濟宗は何をしていたか、と言われないよう自覚を高めなければならぬ」と呼びかけた。本派第一教区からは、矢野謙堂師(大光明寺住職)と江上正道師(眞如寺住職)が出頭した。



本堂を行導する有馬管長ほか大方尊宿



一同で「白隠禪師坐禪和讃」を諷誦する



諷経後に御垂訓をされる有馬管長

白隠禅師遠諱法要
香語は左の如し。

正宗伝統普天禪	正宗の伝統、普天の禪
去住落處辨機宣	去住の落處、機宣を辨ず
生滅有無不遮掩	生滅の有無、遮掩せず
高風二百五十年	高風二百五十年

頼底九拜

定中昭鑑



焼香する清水寺森清範貫主ほか御尊宿方

仙道定款

大通院
相国寺専門道場師家

小林玄徳

佛道定款

—YOUR GUIDE FOR
DEATH EDUCATION—

第八条 壁 I

道は平らかに続いて見えている様に見えた。

たちまち霧が立ち込めて、道が消えた。

そんなときは、霧が晴れる迄一息入れよう。

道は確かに彼方迄続いていた。

たちまち雪で道が消えてしまった。

春迄冬眠すればいい。

道がある限り、必ず歩いて行ける。

道の後から来る者の為に、

道標を残して置いてやろう。

第八条 壁Ⅱ

体全体で体当りして、壁に立ち向うこと。

壁に触れて十分に観察、壁の性質を知ること。

性質に対応して創意・工夫・拮据・継続。

手強いときは、引くこと・待つこと・耐えること。

再び体当り。観察、深く細く洞察・推察。

壁の特性を熟知すること。強度・耐久性を体得。

特性に随って、無理のない自然な着想へ還元。

抗撃のあるときは一時避避・一時待機・忍耐継続。

再再度壁に触れ、慎重に壁の状態を点検・確認。

壁の性癖・習性・種類・力量・限界を見抜くこと。

壁は大人しい！壁は道を塞ぐ程の剛体ではなかった！

壁に小さな罅割れ発見。そこを叩いて先へ進むがよい！！

「仏道」

道心堅固・色身法身——二身堅固
相続の力が最も大事

法話会の質問で多いのが「人生の壁、仕事の壁、研究の壁にぶつかって難儀しているが、壁を突破するに最善の知恵を示してほしい」というものです。今回の第八条を作ってみました。

壁を突破できない原因は、畢竟するところ本人の内面の弱さと未熟さに依るものであって、半年や一年はどうか壁に向き合って居ても二年、三年となると、自分の最初の志も忘れて、壁に塞がれて道が進まなくなったことを理由に、道を変更して新しい道を求めて墮落していく者が尠くないのである。どんな強敵の壁が道を遮ろうとも相続の力を發揮して、何重もの壁を透過して初期の目的を行き遂げることが、僧侶としても、在家としても、今日の様に上辺だけの時代にあっては、増増大切なことになると思うのである。

尚、自然な縁である、霧や雪が道を遮ることもしばしばあるので、そのことも盲点として忘れてはならないことを壁のIで示しておいた。

「金閣寺の大根焼き」

上田 幸男



平椀で出される「丸大根とあぶらげの味噌煮」

例年十一月二十一日は金閣寺の開山忌。ここに特筆すべき「大根焼き」があります。写真の中央、平椀に盛りつけてある「丸大根半分切りとあぶらげの味噌煮」のことです。十一月二十一日となりますと、いよいよ寒さが増しお詣りの皆様に、よく体を温めていただく料理がないものかと考え出されたのが、この大根焼きなんですよ、とお聞きいたしました。

丸大根は、もともと尾張地方が主産地で、その後品種改良されながら、京都市左京区の聖護院あたりでも広く栽培されました。それぞれの地名から、尾張大根、聖護院大根

の名があります。その後、宅地造成などが進み、現在では京都市南部地域で「淀の聖護院大根」の名で大いに流通しております。この大根は、丸くずんぐりとして大きなものは二キロにもなります。一般に「丸大根」と呼ばれ晩秋から冬にかけて旬の材料であります。

さて、大根選びです。必ず手に持ち上げてみます。感じとして見た目よりも重く、色艶の良いもの、表面に皺しわや傷のあるものは避け、また軽くたたいてずしりとした音が感じられたら良しとします。昨今、ほとんどの食材はラップされて店頭になります。埃ほこりがつかず衛生的であ



選別された「聖護院大根」

りますが、食材から漂う香りが解りません。これは食材を判断するもう一つの大切な点だと思うのでありますが。

丸大根の皮を分厚めに取り去り、糠茹きをします。これは、大根の持つ辛味を消して、甘味を引き出させる為であります。糠を取り去って大鍋に入れ、別に作っておいた出汁を注ぎ入れます。大根がゆらりと浮かぶ出汁量を目安として煮ていきます。何しろ、丸大根の半分切りでありますので、じっくり、ゆつくりと煮るのです。時を見て、赤味噌を加えて味を調えます。試食して、大根の中央が白いと見えるのは味噌が足りないものであり、更にじっくりと煮る必要があります。熱つ熱つの大根を平椀に盛り、あぶらげと七味を添えてさし出します。大きな大根なので蓋は出来ず、湯気が立って出てきますと、はじめて召し上がる方はその料理に驚き感心されます。これほど季節感のあふれる「お平」はないと思います。その昔は、大根はもつと大きく平椀の縁にかかるような大きさもありました。持ち帰られ「家族の皆といただくのが楽しみでした」、との声もよくお聞きいたしました。

さて、この大根焚きは現在ではガス火であります。私が仕事に就いた頃は焚き木での調理でありました。昭和三十年代は、まだまだどこの家でも焚き木が主流で、ごはんはもちろんのこと煮焚きもの全てが焚き木でありました。この大根焚きにつき、先輩の言いつけにより、焚き木を運んだり整えたりをいたしました。その後、先輩より受け継いで二十年以上、大根焚きをさせていただきました。

金閣寺の大竈（鍋をかけて煮たきする装置）での大根焚きでは、色んな道具がありました。火吹竹（長さ四〇センチ程・太さ五センチ）は、フウフウと最初の着火を助けるために火種に吹くのであります。火鋏（長さ一メートル以上・幅三センチ程の鉄製で、半分に折り曲げてある）は、着火している焚き木を一段と燃えやすいように組み立て、鍋の中央によく火が当たるようにします。焚き木が燃えつきると炭火になり、これを「熾」と言います。熾は大変熱が強く、これを利用して調理するのです。一方、熾の火の用心には気をつけねばならず、もう火種も見えず黒くなって消えてしまったと思いきや、火鋏で確かめますと炭火の中心は赤々とした火であります。十能または火掻き（長さ六〇〜八〇センチ）は、大きなスプーンと考えると良いですが、これを使って熾を掬って火消壺に入れます。火消壺は大きなバケツに蓋があるようなもので、金属で出来ており、熾火をその中へ入れ蓋をし、空気を遮断して消火するのです。現代では、焚き木による調理など皆無であります。ごはん焚きのお焦げの味は、私の頬っぺの中に今もあります。長年の焚き木による大根焚きを思い出しながら記しました。

大根焚きには鉄鍋を使うのが最良で、他の鍋ではあつさりとした味になるようで、大根が鉄分を含んで黒黒と煮上るのが良いと思います。

いつの頃よりこの大根焚きが始められたのかと思っておりますが、恐らく明治の頃からであろうとお聞きしました。

相国寺の庭園

第四回

方丈の庭園

植昭 長岡造園 長岡秀晃



大鍋で料理される丸大根

毎年この大根がうまく煮えてくれるかなと思いい、あれこれと考えてやるのですが、皆様より「本年は、よう出来とったな」、また「まあまあやな」、ある年には「味噌が足らん、水臭い」などと感想をいただきます。そして「大根ばかり見とらんと、あぶらげの味もすっかり見ないといけないよ」と。これこそが、晩秋の丸大根半分切りの味噌燻きであります。

(精進料理 上^{うえ}幸^{こう})

前号でお伝えした、「相国寺で一番新しい庭」に管長猥下より「蓬萊の庭(蓬萊庭)」という名前を付けていただきました。命名していただいた管長猥下並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。名前に恥じぬ維持管理をし、庭を成長させていきますので拝観されることになれば是非ご覧になってください。

今号では、方丈の維持管理についてお話させていただきます。方丈は春と秋に特別拝観があり、観音懺法等各種行事でも使用されていますので、読者の皆様の中にもご覧になったことのある方が多いのではないのでしょうか。方丈の庭園は、表方丈と裏方丈から成り、表と裏で全く違った雰囲気です。

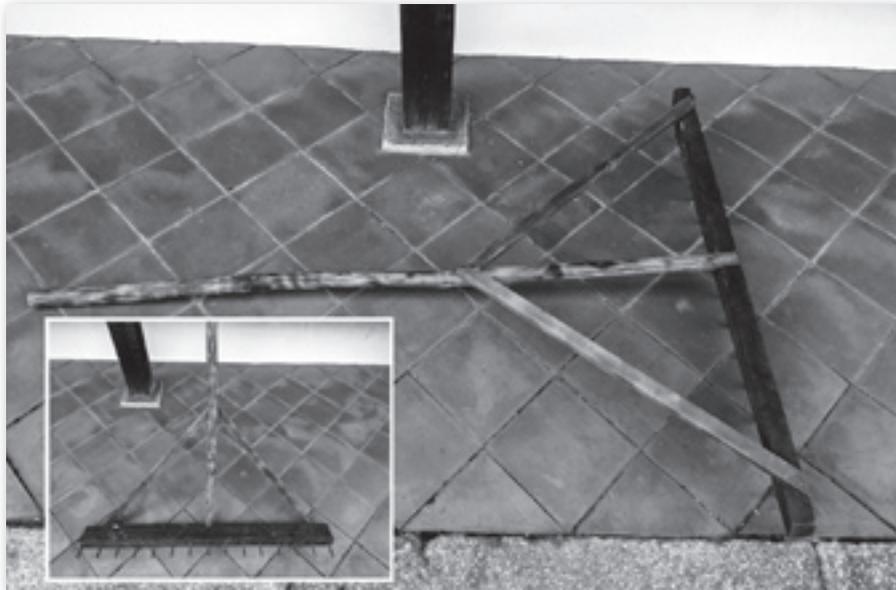
表方丈は禅の教えであり、「執着すべきものはひとつもない」という意味の「本来無ほんらいむいちもつ一物」

に従い、白砂を敷き詰めただけの造りになっています。管理の際も荘厳な雰囲気合うよう、奇をてらった形ではなく直線のみ模様で砂紋を引いています。この砂紋を描く道具は手作りで、場所によって様々な素材・形のものが使われています。相国寺のものは木製のトンボに鉄の棒を差し込んだ形状になっています。道具の重量がないと白砂に食い込まず、表面をなぞることしかできないので、重たい木を使い鉄棒がしっかり白砂に食い込むように出来ています。

表方丈から建物の西側を通り裏方丈に抜けると、深山幽谷の雰囲気漂う庭園が姿を現します。この庭園は、起伏に富んだ地形が特徴の枯山水形式の庭園です。庭園中央部が深く掘り込まれ、谷のようになっています。谷底部に並べられた石が川の水を表しており、庭園西側の



表方丈砂紋



砂紋引き

滝石組を源流とする川の流れが庭園内を横切っている様が表現されています。従来の見るだけ、用(実用性)と景(見た目)でいう景に重きを置いた枯山水とは異なり、裏方丈庭園は実際に雨水の排水という用の役割をしっかりと果たしています。谷型の形状のため集水効果があり、また谷底部に石が並べてあるため水はけが良く自然の排水設備になっています。強い雨が降ると水が溜まって実際の川のような見た目に変化しますが、長時間溜まっていることはありません。もし雨の日に拝観されて、水が溜まっている風景を見られたら珍しい場面に出くわしたと思ってください。

裏方丈庭園には多くの樹木が植わっています。谷に向かって張り出したアカマツやモミジ、枝垂れ桜といった大木と梅や馬酔木、ツツジといった中低木が折り重なって深山幽谷の雰囲気

気を作り出しています。春の新緑や秋の紅葉は本来に見応えがあり、京都の街中にあることを忘れさせてくれます。維持管理も、その雰囲気壊さないことを第一に考えながら行っています。モミジや桜は周りの樹木の生長を阻害するような場合を除き、頻繁に手を入れることはせずに大きく育て、自然な樹形を維持しています。中低木は、庭園を挟んで北側にある書院との間の自然の目隠しにもなっています。懐の枝を出来るだけ残して大きさは現状を維持しながらも透け過ぎないように注意しながら剪定を行っています。

四季を通じて不変の「表」と四季折々の表情を見せて見どころの多い「裏」、建物を一周するだけで大きな変化を体験することが出来る方丈。その裏側の部分を今回少しでも知っていただけなら幸いです。



砂紋引き作業



裏方丈庭園と滝石組

青春の 一ページ

演劇塾 長田学舎 齊藤浩未

みなさん。唐突ですが、「甘酸っぱい」と聞くと何を思い浮かべますか？
そう！それぞれ！それですよ！

私は地元の公立高校に通っていた。一年生の時に同じクラスだったT君は、六人の男女仲良しグループの中の一人だった。たまたま席が近かったのがきっかけで、意気投合し、よくみんなで遊園地に行ったり、カラオケボックスに行ったり、クラスがバラバラになってもそれは変わらずでー。

いたずら好きのやんちゃくれ。いつも誰かにちょっとしたいたずらを仕掛けてはケタケタ笑ってほんと子供。でも本当の彼は、とっても優しくて人を楽しませる事が大好き。負けず嫌いで曲がったことも大嫌いだ。口が悪いのはシャイだからその照れ隠し。少し大人っぽくて近寄りたいたい雰囲気があるけど、無邪気に笑った表情はやっぱり子供。

気がつけばT君の事が好きになってた。想いを伝えたいけど、ずっと友達として過ごしてきて今更……。みんなとのグループの輪を乱したくないし、それに何よりT君と友達としてでもいられなくなるのが

怖くて、私はT君への想いを心の奥にそっとしまった。

そんな私の気持ちを知らない彼は全くおかまいなし。

「斉藤、お前ほんまめっちゃええやつやな。なんで男ちゃうねん」

「どっちにしても女や思っへんやろ」

「思っへんけどな。ほんま男やったらよかったのになあ」

「（腹立つわあ〜）」

とこんな感じでのいつものやりとり。でもそれで良かった。T君とずっと友達でいられるのなら・・・。

あつという間に三年生になってあと半年で卒業。そんな時、T君が学校一のマドンナMちゃんと付き合っているという噂を聞いた。

噂は、聞いたその日に真実になった。T君とMちゃんが二人仲良く下校するところを目撃してしまった。胸がぎゅううってなった。

「痛い・・・」

そのぎゅううはずっと治らなかった。T君を好きだと気がついた日、ちゃんとしまったはずなのに。

家の電話が鳴った。出るとT君だった。私達はクラスが離れてから



はよく電話で話をした。その日の電話もいつものようにたわいもない話。だけどだんだん……。

今までも沢山話をしてきているのに、Mちゃんの事一言も言ってくれなかった。いつからMちゃんの事好きやったん？私は、私は……。胸の奥で何かが動き始めて、苦しくって苦しくって息が出来ない――。

「私、T君が好き」

友達のままでいいからずっと一緒にいたい。だから言わないでおうと決めていたその一言を言ってしまった。

「ありがとう、斎藤。でも、ごめん」

自分から好きという気持ちを人に伝えたのはT君が初めてだった。言わば初恋――。

ああ。懐かしいわ。私にもそんなかわいい時があったのね。歳を重ねるにつれ、凶々しくなって、着々と大阪のおばちゃんへの階段を上っている、そんな私にも。

先日、仲良しグループの一人、只今愛媛県に単身赴任中のK君から、

「GWに大阪帰るし五月三日空けといて」とメールがあった。K君の奥さんは私も知り合いという事もあり、今でもたまに三人で会っている。五月二日の夜にK君から、三日の場所と時間のお知らせのメールが来た。

「18時に梅田ね、はいはい。えっ?」

K君からのメールにはこうあった。

「声かけたらみんな集まれることになった。全員集合！久しぶりやし楽しみやな」

あれ?ちょっと待って。奥さんとじゃなくてみんなって、みんな……。

え――そのみんな――

「T君も来るんやあ……」

一度にT君との思い出がよみがえった。あの日告白して、それから変わらずつと友達で、卒業してからも何度か会ったな。そうそう、車買ったからって自慢しに家まで迎えに来てくれてドライブ行っただな。それからお互い忙しくなっていて……、最後に会ったのはいつだったかな。



会わなくなってから何年かしてK君から、T君が結婚した事も子供
ができた事も聞いて知っていた。

ああ、二十年程会っていないんだ。今どうしているのかな。っていう
か明日やん！

えー、何着ていこ。どうしよ着ていく服あらへん。K君なんでもっと
はよ言うてくれへんのよ！と、いつもより念入りにお肌のお手入れを
して就寝。

翌朝お腹が痛くて目が覚めた。あれれ、なんか調子悪いな。朝から
ずっとトイレとお友達状態だし、何で…。はっとした。私は劇団の公
演前でもいつもこうなる。極度の緊張から来るお腹の不調。そう、私
は緊張していたのだ。今日T君に会うから。でも、気持ちの整理なん
てとつくについているし、あれから他の人にも恋をした。彼は結婚を
しているし今更何も…。

そっか、初恋って特別なんだ。

K君が予約してくれたお店で集合。T君以外そろって再会を喜んで
いた。みんなとっても良いパパ、ママになってすっかり落ち着いていた。

そこへ

「遅くなってごめん」

見ればT君だった。二十年前と変わらないあどけない姿を想像していたが、それとは大きく違い洗練された立派な大人のT君の姿がそこにあった。

「おーみんな久しぶり。斎藤久しぶり！」

「ひ、ひ、久しぶり……」

え——嘘！めっちゃ素敵になってるやん！どうしよ、目が合わせられない！

全員揃っての乾杯をして、高校生時代の思い出話をしたり、それぞれ卒業してからの事などを話して盛り上がった。T君が笑ってる。笑う時、右目がウインクしてるみたいに細くなる癖、変わってない。

「斎藤、お前職場でお局ばあやろ——」って憎まれ口もほんと変わってない。

「おっさんに言われたないわ」と私。ふふふっ。なんだかくすぐつたい。不思議、あの頃に戻ったみたい。

「みんな変わらんし楽しいな」ってT君が言った。そやね。中身はみんなあの頃のままやね。

駅までの帰り、T君と私だけが同じ方向だった。二十年ぶりに並んで歩いた。

「今日は楽しかったな。斎藤、またな」

「うん、またね」

昔何度も見ただあの優しい表情。自分が乗るはずの電車を見送って、私が先に乗るのを待っていてくれる。

「はよ乗れや」

そんな言い方してもわかってるよ。T君はいつだって優しい事——。変わらないでいてくれてありがとう。

T君、ありがとう。

初恋——それは青春という名の一ページ。色あせる事なく私の心の奥にあり続ける。

そう、これからもずっと変わらずに……。

え？一体何の話かって？

それは、あ、あれですよ。ほら。

初恋の相手に出会う役が来たら、今なら完璧に演じられますよって話ですが……。

……何か？



おさだ塾秋の自主公演のお知らせ

観客完全参加の終日野外劇

『町かどの藝能』その四十四

「般若林」のお庭に入ってすぐの木戸を一步くぐると
其処は江戸時代の京の都——
芸商人の芸と商い、観客の笑顔に溢れる
江戸時代の縁日にタイムスリップ

平成三十年 十月十二日(金)・十三日(土)・十四日(日) 十一時～十六時 於・般若林(相国寺北門前町)
お問い合わせ先／おさだ塾 TEL・FAX(〇七五)二二一〇一三三八

本山だより (平成二十九年十一月～三十年六月)

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に小林老大師、佐分宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○相楽社発足二十周年記念新年会

一月十六日、相国寺御用達組合の「相楽社」主催による発足三十年を記念する新年会が京都市内のホテルで開催され、有馬管長以下一山の和尚が出席した。当日は、有馬管長より「平成元年十二月よりこれまでの加盟各社の御尽力、御助力に感謝するとともに、今後五十年、百年と続くよう祈念する」との祝辞があり、矢口恵三相楽社会長挨拶に続き、発足当時の宗務総長であった長尾守峰師(是心



祝辞を述べる有馬管長



発足30周年の挨拶をする矢口会長



一新された相国寺境内設置の全景図

寺閑栖)により乾杯の発声が行われ、各社出席者との懇親がはかられた。現在、相楽社は三十一社により構成されている。

また、同社により相国寺境内に設置されていた境内図の看板も、三十周年にあわせて一新された。

○第十三回臨黄教化研究会

二月十三日、十四日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第十三回臨黄教化研究会が開催され、本派からは教区順に佐分昭文師(第一教区豊光寺副住職)、澤宗秀師(同林光院副住職)、平塚景山師(同養源院副住職)、荒木文紹師(第二教区光照寺住職)、佐々木樊堂師(第三教区天正寺住職)、松下恵悟師(第六教区永徳寺住職)、松本昭憲師(同光明寺住職)の七名が参加した。今回は「伝える」をテーマに、檀信徒向き法話の題目を各自事前に決めて、会場で話をする内容で研鑽を積んだ。また開講式と基調講演

には佐分宗務総長、矢野教学部長も出席した。

○第一教区総会

二月十五日、第一教区総会が開催され、有馬管長以下、第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計十九名が出席した。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会

ならびに理事会

二月二十六日より二十八日まで、南禅寺(京都市左京区)に於いて布教師特別研修会が開催され、初日の開講式と理事会には佐分宗務総長が、最終日の閉講式には矢野教学部長が出席した。

○東京別院開山忌並観梅茶会

三月三日、相国寺東京別院において開山忌が厳修され、有馬管長導師のもと佐分宗務総長をはじめ一山和尚や招待客が出頭した。その後は観梅の釜がかり、書院での薄茶席に続き、茶室「正覚庵」で管長自らのお点前に

よる濃茶がふるまわれた。さらに客殿の点心席では、庭園の見ごろとなった紅梅白梅をご覧いただき、よき早春の一日となった。薄茶席、濃茶席、点心席での接待や諸説明、来客の受付案内等は、一山和尚が務めた。

○禅文化研究所理事会

三月六日、公益財団法人禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

○定期宗会

三月七日、各教区から登山した七名の宗会議員、評議会議長、鹿苑寺・慈照寺各代表、内局員全員の計十七名が出席のもと、平成二十九年定期宗会が本山会議室で開催された。有馬管長の入場後全員で開山諷経、続いてご挨拶をたまわった後、芝原一三師(第六教区感應寺閑栖)を議長とし審議に入った。代議員、会計監査員の選定に続き、平成二十八

年度相国寺派・相国寺本山決算報告、三十年相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館平成二十八年度決算・事業報告、三十年度予算案・事業計画案が承認可決された。

○春期巡教

臨済宗連合各派布教団に所属する本派布教師の「平成三十年定期巡教」で、松本憲融師(第六教区光明寺閑栖)が三月十六～二十三日に広島県の佛通寺派九カ寺、三月三十一日～十七日に大分県の大徳寺派・東福寺派十八カ寺の計二十七カ寺を、平塚景山師(第一教区養源院副住職)が三月十七～二十一日と四月八・九日に福岡県の東福寺派七カ寺を、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)が四月十五～二十一日に山口県の東福寺派七カ寺を順に巡教した。

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月二十五日、第三教区瑞林寺(三重県津



第49回若狭少年研修会の開会式に参加する児童



伊藤彰若狭相国会会長による少年研修会挨拶



少年研修会で坐禅する児童

市・長谷寺高山宗親住職兼務)では開山毎歳忌が厳修され、佐分宗務総長と久山慈照寺執事が拝請を受け出頭した。

(教区だより53ページ参照)

○三十年度「京の冬の旅」

ならびに春期特別拝観

一月十日より三月十八日までの京都市観光協会による第五十二回「京の冬の旅」法堂・方丈特別公開、三月二十四日より六月四日までの春期拝観による法堂・方丈・宣明(浴室)を公開が無事終了した。両公開により期間中に四七、六九一名の参拝があった。

秋期特別拝観は、九月二十五日より十二月十五日まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。

○第四教区若狭少年研修会

四月五日、第四十九回・第四教区若狭少年研修会が、本山方丈・大書院にて行われた。

有浦宗健師の前堂転位式が挙行された(届け出順)。また有浦師が同日付で同教区長得院副住職に就任した。両師の今後の活躍が期待される。

吉田師は昭和四十八年生まれ、花園大学卒業後、龍澤寺専門道場にて修行された。



吉田厚司師

拝塔偈は左の如し。

浅學菲戈身不顧
参臨濟宗門佛法
苦不敢厭柴何求
萬難克己磨丹精

今回は学童五十二名と寺院十名、役員六名の計六十八名が参加した。登山した少年少女たちは、方丈での開会式で般若心経、消災呪を唱え、佐分宗務総長の法話、第四教区伊藤彰相国协会会长挨拶を聞いたあと、教学部指導による坐禅を体験した。また、参加記念として本山より数珠とクリアファイルが送られ、別室にて職員お手製のカレーライスを作法に従って頂いた後、次の目的地へ向かった。なお、例年合同開催していた第二教区の子供研修会は、参加者無しのために中止となった。

○臨黄合議所理事会

四月十一日、臨黄合議所理事会が南禅寺に於いて開催され、佐分宗務総長が出席した。

○前堂転位式

四月二十一日、開山堂に於いて第二教区福性寺(吉田弘道住職)徒弟の吉田厚司師、ならびに第一教区長得院(緒方香州住職)徒弟の

有浦師は昭和五十年生まれ、長崎県立彦岐高校卒業後、崇福寺専門道場、国泰寺専門道場にて修行された。



有浦宗健師

拜塔偈は左の如し。

春水溶溶恵日輝
門前人笑詠而歸
萬年瑟瑟夢窓塔
恆古恆今僧拜幾

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(小出量堂執事長)では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修

された。有馬管長を導師に、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ一山尊宿、関係寺院僧侶により諷経がなされた。

○禅文化研究所理事会

五月二十八日、公益財団法人禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

○日田辯財天春季大祭

五月二十八日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭法要があり、有馬管長を導師に、本山より澤鹿苑寺執事長、小出慈照寺執事長、江上参事、荒木泰量師(光源院副住職)が、また管長が徒弟時代を過ごした岳林寺の瀬川道信住職(妙心寺派)ほか縁故寺院が出頭して大般若転読諷経、参拝者と共に弁財尊天御真言諷誦が行われた。



西山弁財天で導師を務める有馬管長



教本による肩たたきを受ける参拝者

○相国会本部役員会

五月三十日、午後一時より本山会議室において、平成三十年度相国会本部役員会が開催された。般若心経一卷を諷経後、相国会総裁の有馬管長より挨拶を賜り、引き続き副総裁の佐分宗務総長挨拶、第五教区理事杉原定氏の議長選出を経て審議に入った。平成二十九年事業・決算報告、三十年度予算案、事業計画案の順に事務局より示され、それぞれ承認可決された。

当日の出席者は左記の通り。

理事	顧問
第一教区 片岡 匡三	澤 宗泰
第二教区 波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区 玉倉 忠彦	梶谷 承忍
第四教区 伊藤 彰	木下 雅教
第五教区 杉原 定	延本 輝典
第六教区 上野 敏孝	芝原 一三
他、宗務総長以下内局員 四名	

○三十年度春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、法堂・方丈・宣明(浴室)を公開し、二五、三〇〇名の参拝があった。秋期特別拝観は、九月二十五日より十二月十五日まで、法堂・方丈・開山堂を公開の予定である。

○観音懺法会「ご先祖追善供養」

六月八日から十四日まで、伊藤若冲筆「動植綵絵」コロタイプ複製画三十幅を方丈に掛けて公開した。期間中に多くの来訪者を受付した。



○観音懺法会

年中行事の一つの「観音懺法会」が、恒例により六月十七日午前七時半より厳修された。法要中に多くの参拝者が訪れた。諸役は次の通り。

◆役配

導師	賢明東堂(是心寺住職)
香華	昭文塔主(豊光寺副住職)
自帰	慈照大和尚
打磬	宗秀塔主(林光院副住職)
太鼓	長栄和尚
大鉦	正道東堂(眞如寺住職)
中鉦	泰量塔主(光源院副住職)
小鉦	景山座元(養源院副住職)
維那	普廣和尚

○臨済宗連合各派布教団本部理事会

六月二十五日、南禅寺において布教団本部理事会が開催され、佐分宗務総長と矢野教学部長が出席した。



平成三十年度(雨安居) 相国僧堂 在錫者名簿

京都(相国) 慈雲院徒 中山真周
京都(相国) 大通院徒 鈴木承圓

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願いします。(電話〇七五―三二一―〇三〇一)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、

スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

東京維摩会

本年の開催日は左記の通りです。

会場：相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

九月十五日(土)、十月六日(土)、十一月十日(土)、十二月十五日(土) (八月は休会です)

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願いします。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

威儀：服装は、楽でゆつたりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、

スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

小林老師坐禅会

八月四日(土)、九月九日(日)、十月十三日(土)、十一月十七日(土)、十二月二十三日(日)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

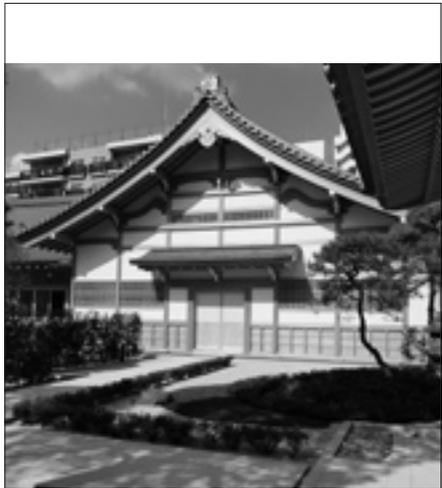
注意点：五人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが

望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺東京別院 (電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858

会場：方丈・客殿
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

教区だより

第一教区

○出町青龍妙音辨財天「巳の日法要」

五月十三日、出町青龍妙音辨財天において、第六回「巳の日法要」が厳修され、導師の矢野謙堂師(大光明寺住職)以下、牛江宗道師(竹林寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀(林光院副住職)が出頭し、多くの祈祷申込者にお札とお守りが授与された。来年の同法要は五月八日に開催の予定である。

○眞如寺「半僧坊大権現」ご遷座一〇〇年記念大祭

五月十三日、眞如寺においてカキツバタの開花時期に合わせて、鎮守の半僧坊大権現御開帳大祭が行われた。大正七年(一九一八)に半僧坊大権現像が、相国寺山内より当寺に遷座されて今年で満一〇〇年を迎えた。御開



遷座100年を迎えた半僧坊大権現法要の参拝者 写真撮影◎柴田明蘭氏

帳法要では導師の江上正道住職以下、半僧坊の本山である浜松市の大本山方広寺より涌出講社部長、一山より江上泰山眞如寺閑栖、矢野謙堂師(大光明寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀師(林光院副住職)ほか縁故寺院が出頭し大般若祈禱を行った。同時に、法堂の特別公開、客殿では昨年引き続き後水尾天皇ゆかりの華道「山村御流」添え華展、書院では抹茶と半僧坊特製菓子による呈茶席、境内では手作り市が合わせて開催され、あいにくの雨とはなつたが終日参拝者が訪れた。来年は五月十二日に開催の予定である。

第二教区

○第二教区定期総会

四月二十八日、相国寺塔頭の慈照院(久山隆昭住職・第二教区神昌寺を兼務)に於いて、第二教区定期総会が十二名の住職出席のもと

開催された。

例年の如く、今年度の賦課金などを集めた後、本堂に赴いて諷経を行った。総会では、この一年間の事業報告、会計報告が行われた。宗制改正のための諮問委員会が設置されたことも報告された。

総会後、懇親会では二年前に落慶された慈照院宸殿にて菓石を頂きながら歓談し親交を深めた。

第三教区

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月二十五日、瑞林寺(三重県津市片田井戸町・長谷寺高山宗親兼務住職)では、大本山から佐分宗順宗務総長兼庶務部長、久山哲永慈照寺執事を拝請、開山毎歳忌を厳修した。

当日は、本堂にて本尊回向、続いて佐々木家供養並びに井戸町戦士戦没者追善供養の後、



慈照院で開催の第二教区定期総会参加僧侶



記念碑前で諷経する参列者

本堂西側の小高い場所にある夢窓國師生誕地記念碑前に於いて、大悲呪一卷を読誦するか、参列者一同焼香し國師の遺徳を偲んだ。

第四教区

○真乗寺落慶法要

十一月十九日、真乗寺に於いて開催。諸堂修繕・山門建設の落慶法要を厳修。教区・近隣・縁故寺院十六名出席し、大般若法要を行った。

○宗務本所 支所会

十二月十三日、支所会を真乗寺に於いて開催。兼務交代の事務、春季巡教、厚生年金・健康保険制度の研修について協議した。

○宗務支所 役員会

一月九日・三十一日、真乗寺に於いて開催。釈宗演百年遠忌法要の準備作業を行った。

○若狭相国会 役員会

二月六日、真乗寺に於いて開催。少年研究会、巡教の日程について検討した。

○宗務支所 役員会

二月八日、真乗寺に於いて開催。釈宗演百年遠忌法要の準備作業を行った。

○若狭相国会 役員会

二月十四日、真乗寺に於いて開催。「釈宗演を顕彰する会」と合同調整会議を行った。

○宗務支所 支所会

二月二十一日、真乗寺に於いて開催。厚生年金・健康保険制度について、敦賀社会保険事務所より二名来訪、説明・解説を受ける。教区新年会を行った。



新たになった真乗寺山門



真乗寺落慶法要で厳修された大般若祈祷

○若狭相国会 役員会

三月十九日、真乗寺に於いて開催。少年研修会について検討した。

○宗務支所 役員会

三月二十三日、真乗寺に於いて開催。釈宗演百年遠忌法要の準備作業を行った。

○若狭相国会 少年研修会

四月五日、第四十九回若狭少年研修会を行った。児童五十二名参加した。

○宗務支所 支所会

四月二十七日、真乗寺に於いて開催。定期宗議会報告・平成二十九年度教区会計報告、釈宗演百年遠忌法要について協議した。

○若狭相国会 役員会

五月八日、高浜の城山荘に於いて開催。平成二十九年度会計監査・平成三十年度若狭相国会

総会、釈宗演百年遠忌法要について協議した。

○若狭相国会総会

五月二十三日、元興寺において開催。講演は潮音院鈴木元浩住職が行った。

第五教区

○勝部大義東光寺住職ご遷化

三月三十一日に、東光寺（出雲市斐川町原鹿）の勝部大義住職が九十一歳で薬石功無くご遷化された。師は大正十五年生まれ。昭和四十年九月に東光寺住職を拜命され、以後五十三年の長きにわたり同寺の経営、護持発展に尽力されたほか民生委員も務められた。平成二十八年には、再住の法階を稟承、住職在職五十年表彰をされておられる。本葬は、四月十九日に営まれた。

○出雲相国会総会

五月十日、富田寺に於いて平成三十年度出雲相国会総会を開催いたしました。教区内の寺院、寺院の総代役員が出席。平成二十九年度の事業報告、決算報告を審議し承認された。出雲相国会の平成三十年度予算、事業計画を審議し承認された。主な三十年度の事業は、夏休み親子坐禅会、本山開山忌に合わせての団体参拝、出雲相国会だよりの作成。

第六教区

○独秀流研修会

五月二十三日、午前九時半より午後三時まで感應寺（鹿兒島県出水市）本堂に於いて、独秀流御詠歌の特別一日研修会が開催されました。

当日は独秀流南禅教会より派遣された副詠鑑の一常玄裕師（京都府福知山市・南禅寺派養泉寺住職）のご指導のもと、感應寺と良福寺

の御詠歌会員三十数名が研修を受けました。

一常師の懇切丁寧なご指導で、とても内容のある研修会でした。

○第六教区住職会

五月三十一日、午後六時より霧島観光ホテルにて今年度の第六教区住職会が開催されました。

当教区は各寺院がとても遠距離なので、年に一度のこの住職会を楽しみにしています。

今年も泊りがけの語らいで、親睦を深めました。



釈しゃく宗そう演えん禪師ぜんしの 百年遠諱えんを 迎えて

第二回

釈宗演を顕彰する会
第四教区若狭相国会

会長 伊藤 彰

今回は、海外への禅「ZEN」の伝道に縁のあった人物の紹介、そして顕彰活動等の現況について述べます。

宗演禪師は、宗教界を越えて多くの方々との交流があり、一概には言えませんが、次の三名との縁により海外へ禅を「ZEN」として伝えることに結び付いたと思っております。

一人目は横浜の実業家「野村洋三」です。明治三年岐阜県生まれで大阪に出て実用英語を勉強。京都の古美術商などを経て東京に移り、東京専門学校(現早稲田大学)に学ぶ傍ら英語学校へ通う。英語力が認められて日本製茶会社に入り明治二十三年渡米。翌二十四年に帰国後、宗演禪師から時々仏法の話聞いていた。明治二十六年の万国宗教大会出席の宗演禪師ら日本代表団に同行し通訳。その後横浜に外国人相手の古美術店「サムライ商会」を開業。来日した米国サンフランシスコの家具商ラッセル夫人一行を宗演禪師に案内した。

二人目は米国人「ラッセル夫人」です。明治三十五年観光で来日し、坐禅をしている人がいないか尋ねたガイドが偶然野村洋三であり、宗演禪師の元に連れて行かれた。文明社会の生存競争の激しい世の中では心を静かに保つことが必要と感じ、来日前から坐禅のようなことをしていたとのこと。白人の参禅第一号で約九箇月間、円覚寺内の正伝庵に滞在し雲水と同じような生活を送る。明治三十八年、今度は宗演禪師を

米国ラッセル邸に招いた。ラッセル夫人家族は邸内に日本座敷・日本庭園を造って宗演禪師を迎え、約九箇月間禪指導を受け、また四十二章経の講話を聞いた。「遺骨は深き信頼と畏敬する宗演禪師の元に安置して欲しい」との遺言により、宗演禪師は東慶寺内にラッセル夫人供養塔を建立された。



ラッセル夫人供養塔(鎌倉東慶寺)

三人目は世界的に有名な宗教学者「鈴木大拙」です。最初は洪川宗温に参禅していたが、示寂後宗演禪師に参禅し居士号大拙を受ける。大拙は相国寺で鬼大拙とうたわれた第四教区出身の大拙承演から名付けたと言われている。シカゴ万国宗教大会での宗演禪師の演説(鈴木大拙英訳)に感銘を受けた米国ポール・ケーラス博士からの要請で渡米し、シカゴ近郊で宗教・哲学に関する雑誌の編集等を行っていた。ラッセル邸で宗演禪師に合流し米国内の布教に同行・通訳を行った。その後、宗演禪師の法話を英文にして出版し「ZEN」を広めた。

これら三名は宗演禪師と共に鎌倉東慶寺にて静かに眠っています。

さて顕彰活動についてですが、全国に誇れる高浜町の取り組みの一つとして、高浜町の有線テレビ新春特別番組で町長と対談し、宗演禪師の偉業や顕彰活動について語りました。約六分間と短かったです。一週間複数回放映されましたので町民になり浸透したと思っております。

また、高浜町内の全小学校を訪問し、六年生を対象に紙芝居等を使って生涯、偉業等を学ぶ学習会を行いました。紙芝居は高浜中学校の美術部作成によるもので、小僧時代に建仁寺の両足院の廊下で無断で昼寝をしていて見付かり、その時の師俊崖老師の取られた態度から上に立つ人の心構えを学んだことや、セイロンからの帰りの船上で蚊の大群に襲われ、自分の体を蚊に施そうではないかと考え坐禅に集中して



高浜小学校での学習会

いると、蚊と自分が一体となり爽快な気持ちになった貴重な体験もきつちりと描かれており、子供達もノートを取りながら熱心に聞き入っていました。子供たちからは「困難を乗り越えていった人、僕もそうして行きたい」、「高浜にこんなすごい人がいたのを知らなかったのが家に帰ったら話したい」、「遠い国まで行って禅を広めたこと、そんな立派な人がいることは高浜の誇りだと思った」等々多くの感想をもらい、次の五十年後は君たちが伝えて欲しいと託しました。

この他、高浜町内の区長会

会合での偉業・高浜との関わり等の紹介や魅力・性格・人脈等を語るミニ学習会も実施し更なる周知を図っています。

九月十五～十七日の三日間、外国人を対象として、坐禅体験、日本文化(茶・琴・書・食)でのおもてなし、そして町内宗演禅師ゆかりの地をめぐる『釈宗演禅三昧のつどい』を実施します。高浜町では未経験のイベントであり、これに向けて高浜町・町内関係団体の協力を得ながら準備を進めております。

顕彰碑については形状・碑文、設置場所等も固まり、除幕式(十月二十八日)に向け現在製作中です。碑文字は円覚寺派横田南嶺管長猥下に揮毫いただきました。

百年遠諱法要(十月二十九日)については、第四教区和尚様方にて着々と準備を進めていただいております。若狭相国会会員への教化を深めるため、幕末・明治・大正期に活躍された福井県若狭出身七禅師の生涯・逸話等を編纂した「近世若州僧宝伝」が制作され、法要までに全会員に配布されます。

なお、この百年遠諱に当たりましては、ご本山様より多大なご支援をいただきましたこと厚くお礼申し上げます。

次号の第三回につきましては、顕彰記念事業(顕彰碑除幕式、横田南嶺管長猥下による記念講演等)及び百年遠諱法要について報告いたします。

「同宗連」研修会参加報告

参加報告者 第一教区 林光院副住職 澤 宗秀

全国の各宗教団体が加盟している『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議（同宗連）では、研修会や連絡会が開催されており、昨年秋に北海道で行われた第七十二回「同宗連」研修会に参加する機会を得たので、報告いたします。

日時 二〇一七年十一月十五日（水）～十六日（木）

会場 北海道 クリスチャンセンター

主催 『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議

講義一…議題 「アイヌ民族の歴史と文化について」

講師 北海道アイヌ協会

副理事長 阿部 一司氏

アイヌの成り立ちについての講義である。

アイヌはもともと北海道に住んでいる先住民であり主にロシアと本州に住む和人（アイヌ人から見た日本人の名称）と貿易をすることを生業にしてきた。アイヌ人の貿易品は、熊やキツネなどの毛皮、ニシン、鮭の燻製である。和人からは、コメ、酒、宝飾品（ビー玉のようなガラス）、針（特に大切にされた）を取引してきた。しかし、文字や数の概念を持たないアイヌ民族は、貿易の際に和人以上により不公平な取引を強要され、また低い地位の労働者としての扱いを受けた。そのためアイヌ人と和人の間には七十年もの間争いが絶えなかった。また和人はアイヌ人の領土である北海道に入植をはじめ、貿易だけでなく領土も侵入しアイヌ人を奴隷化してきたのである。

幕府による管理をうけ今まで自由に取引ができたロシアとの貿易ができなくなり、和人の管理下におかれ、貿易品の値段も不当に下げられる。

明治政府になり、蝦夷地としたアイヌ人の領土は北海道に改名された。それを機にアイヌ人を旧土人と改め、日本人の平民として編入させ戸籍を作り、和人風の名前を与え、自由な狩猟を禁止し、さらにアイヌ人の文化である入れ墨や耳輪、そのほかの儀式も「野蛮」として禁止する。これでは反発が強まると思った政府が「北海道旧土人保護法」を制定する。しかし、与えられる領地は和人の数分の一だったり、土地の所有権の制限もあり、保護という名の不公平

な内容であった。

教育についても「旧土人児童教育規程」が公布されるものの、内容は和人と区別したレベルの低い教育内容であり、アイヌ人が高い教養を持たないようにした。

教育や生活環境を和人よりも低い程度のものを与えることで、和人から差別や迫害を受けることになる。

講義二・議題 「アイヌ民族として生きること」

講師 元北海道大学

アイヌ先住民研究センター 研究員 原田 公久枝 氏

講師はアイヌ人として生まれ、現代社会になっても差別と迫害を受け、職業を探して日本を転々とした人生を振り返り話をされる。

アイヌの差別は深刻で、勉強をする機会もはく奪される。学校では「明日から来なくていい」「お前はアイヌ人だから勉強しても仕事がないから意味がない。」と学校の先生から言われ、友人からはアイヌ人の見た目から「声をかけるな」と言われいじめを受ける。高等教育を受ける機会はなくアイヌ人のほとんどが中卒又は小卒で、仕事もない。職業安定所の職員に「アイヌ人だから雇うな」

「アイヌ人の毛が飲食品に入る」など裏で手を回され、北海道では就職できないので、本州のアイヌ人になじみのないところで就職を余儀なくされるも中卒のため、低賃金の仕事にしかつけない。北海道民のアイヌ人への差別はいまだに根深く、講師は現在北海道でパートのレジ打ちをしているが、いまだに「アイヌのくせに、何偉そうに商売してんの」「何でお前みたいなもんが触ったものを俺が食わなきゃなんないのよ」と言ってくるお客もいるそうだ。



原田公久枝氏による講義「アイヌ民族として生きること」

講義三・議題 「日本基督教団のアイヌ問題への取り組みについて」

講師 日本基督教団

アイヌ民族情報センター 主事 三浦 忠雄 氏

アイヌ人の現代における根深い差別問題に対して権利回復するための活動をしている。

北海道旧土人保護法により締結された不平等な契約の破棄や改善のための活動や北海道大学などによるアイヌ民族の遺骨の盗掘の返還請求など現在においてもアイヌ人の人権回復活動に従事している。

●分散会

講義を通じて感想を交換する。終了後、交流会に参加。

二日目 フィールドワーク バスを利用して

「北海道博物館」

「アイヌ民族と真宗大谷派教団との関わりについて」(車内にて講義を受ける)

真宗大谷派 北海道教区駐在教導 中西 志香 氏

大谷派とアイヌ民族との関わりは深く、過去には明治政府の政策に加担した歴史がある。

一八七〇年に、当時十九歳の現如法嗣を責任者として明治政府の命令によって、北海道を開拓するために京都より徒歩で北海道を目指す。当時政府に開拓するだけの財力がなく、また大谷派も財政は困窮していた。大谷派は広大な北海道の土地と海産資源に目をつけ、また政府より開拓の際に大谷派のお寺を建立してよいという開拓の許可を得たため、開拓へ参加することになる。しかし、財力が不足していたため京都より歩く道のりの中で農村の次男、三男に声をかけ開拓団を増やし北海道へ渡ったのである。

ところが、布教活動の中で誇張された「錦絵」というものが本州に一般的に広まっていった。それは、アイヌ民族を地べたに並べ、幕を張った高い座敷に宗祖が座りアイヌ民族を蔑む^{さげす}ような絵であった。また絵の中ではアイヌ民族は怪物のように異様な姿に描かれ、人々の差別心をあおるようなものであった。そのため開拓と布教活動の中でアイヌ民族とは調和がとれず、アイヌ民族にとって大谷派の僧侶は袈裟を着た侵略する和人ととらえられてしまった。また過去の大谷派開拓によってアイヌ民族の差別が助長されたととらえた活動家の一人が、後に東本願寺の大薬師堂を爆破するという事態にもなった。

そのため大谷派では、現在でも「出会い直す」をテーマにしてアイヌ民族との



フィールドワーク会場の北海道博物館へ向かう参加者

相互理解を深める交流を行っている。

●全体会

前日の分散会について各グループの感想を話した。

●二日間を通じて

この現代においても今なおアイヌ民族の差別は強く残っており、それによってアイヌ民族の子孫がいまだに傷ついている現状があることを、この度参加して初めて分かった。

宗教者としては、この差別問題の根源と歴史的背景を解釈していくことで、差別解消のパイプ役になることが大切だと感じた。しかし、大谷派の布教活動からもわかるように差別をするつもりがないのにちよつとした解釈の行き違いによりアイヌ民族の誤解を招き関係が悪化し、布教するどころか敵が入ってくるのとらえられてしまう側面もあるということが分かった。宗教者として、どうふるまうかを考える機会となった。

知っているようで知らなかったアイヌ民族の現状と当事者の声を生で聞き、北海道へ行ったことによりまだまだ知らないことをたくさん学ぶことが出来、とても良い機会となった。

【相国寺研究】

井上治氏の講座「慈照寺と無双真古流」はすべての日程を終了いたしました。講義録は本年秋刊行の予定です。

高橋範子承天閣美術館副館長の講座「相国寺文化圏の研究Ⅰ」の四回の講座は、盛況に修了いたしました。

次回は「相国寺文化圏の研究Ⅱ」も予定しておりますのでご期待ください。講義録は『相国寺文化圏の研究Ⅰ』として本年秋刊行の予定です。

いずれの講座も三十人を超える盛況でした

芳澤元氏の講座「相国寺と室町殿・中世社会」四回連続講座の第一回「足利將軍の禪宗入門―代々の受衣儀礼と夢窓派との関係」は予定通り修了いたしました。これからの芳澤氏の講座予定は次の通りです。

講座 『相国寺と室町殿・中世社会』

二〇一八年

三月 十五日(木) 第一回 足利將軍の禪宗入門

……代々の受衣儀礼と夢窓派との関係(終了)

八月三十一日(金) 第二回 室町殿の出家と受戒

……最新の研究をふまえた足利義満cf.像肖像にみる義満と義持

未 定 第三回 中世宗教の中の相国寺

……五山と南都・比叡山の対立と交流cf.鹿苑院と華嚴学

未 定 第四回 在俗宗教論の可能性

……宗教と政治・社会の関係をめぐりcf.塔頭と門前

『近代化する金閣―日本仏教教団史講義』 法藏館 発刊

相国寺史編纂室の藤田和敏研究員のこれまでの三つの相国寺研究講義録をまとめ、加筆訂正を加え一般向け書籍として法藏館より出版されました。相国寺派の各寺院には一部を配布させていただきました。

第一部 室町・戦国時代の相国寺(二講 相国寺と北山第の開創、二講 東山山荘と鹿苑僧録・蔭涼職) 中世編を新たに加筆し、第二部は相国寺の連続講義の改訂版になっています。



【宗制・宗規の研究】京都仏教会と共催

相国寺の規則改正作業に合わせて、宗教団体と宗教学者の違いや、宗制、法人規則の区別、宗教専門職と厚生年金や社会保険、労働基準法、給与所得税などの諸問題、「僧侶は労働者か」といった問題点に取り組みするための研修会を、新しく一般財団法人化された京都仏教会の「宗教と社会研究実践センター」と共同で開催することになりました。その成果をまとめて報告書を刊行する予定です。

第一回は五月十八日、相国寺二階講堂で開催され、「宗教と社会研究実践センター」主任研究員の櫻井園郎氏が講演、同田中滋氏（社会学）の司会で自由討議が行われました。出席者は京都仏教会の評議員、顧問の学者、各宗教団体の代表など約四十人が参加しました。

この研究会は引き続き相国寺東京別院においても、厚生労働省の担当者、各宗教団体の関係者等を招き、研究会を開催する予定です。年度内に三から四回の研修会を予定しております。

各講座および研修会の『講義録』をご希望の

方は、一冊につき手数料二千円を添え、下記の相国寺宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「研修会」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五一一三二一〇三〇一

FAX〇七五一一二二三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-ji.jp>)

相国寺史編纂室だより ―室町仏教を代表する寺―

相国寺史編纂室では、現在、『相国寺史』史料編第一巻「中世一」の出版準備が大詰めを迎えています。今年度中の発刊を目指して原稿の最終確認をしています。第一巻には、相国寺が最も繁栄していた足利義満の時代の史料が多く入っています。今回は、そのころの相国寺の特色を紹介しましょう。

相国寺は創建時から一貫して禅宗の寺ですが、義満のころには禅宗以外の僧侶も相国寺で仏事を行っていました。明德元年（一三九〇）四月に、義満が相国寺で開催した足利尊氏三十三回忌の仏事は、その代表的なものです。このとき、相国寺住持をはじめとする禅僧は法堂で説法をしました。一方、相国寺八講堂では、延暦寺・興福寺などの僧が集まって、法華経について論議をする法華八講という法会を行いました。また、同じ会場で仁和寺や東寺などの僧たちは密教の仏事である結縁灌頂を修しました。

禅宗である相国寺で、他の宗派の僧が仏事を行うのは奇異に感じるかもしれません。このような仏事が行

われたのは足利義満の方針で、相国寺を顕教・密教・禅宗をまとめた国家的な仏事を行う場としたためです。

また、相国寺には、現在の京都タワーと同じくらしい高さの七重大塔があったことがよく知られています。この大塔の中には両界曼荼羅を表現した仏像が安置されていて、密教の宗教観を示していました。そして相国寺大塔の落慶法要は、南都北嶺の僧侶千人が中心となって営みまし。相国寺は禅宗の伽藍だけでなく、八講堂や大塔という顕密仏教の建物も合わせ持っていたのです。そのため、相国寺は室町時代の宗教制度を考えるうえで、大変注目されています。

この話の詳細は、二〇一八年六月に刊行された亀田俊和編『初期室町幕府研究の最前線』（洋泉社歴史新書、定価・九八〇円）のなかの中井裕子「室町仏教を代表する官寺、相国寺創建の意義とは？」という部分に収録されていますので、ご興味を持たれた方はぜひ御覧ください。

相国寺史編纂室 中井裕子

<p>創業明暦年間</p>  <p>〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352</p> <p>ゴヨウハシチミヤ 0120-540738 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) http://www.shichimiya.co.jp/</p>	<p>夢のある空間づくりのパートナー</p>  <p>トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理 TOTAL DISPLAY FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工芸</p> <p>[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465</p> <p>[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: fushimi_@d1.dion.ne.jp</p>
<p>税理士 奥谷 昌雄 税理士 内藤 誠</p> <p>〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461</p>	<p><i>Future Active Alliance</i></p> <p>office やまと</p> <p>パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイザー</p> <p>本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494</p> <p>中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極大宮西2丁目29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: info@office-yamato.net</p>
 <p>寺社の電気、空調、防犯、防災設備</p> <p>有限会社 土橋電気設備</p> <p>〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちゃまちゃ 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332</p>	<p>こころをつたえる</p> <p>和文具 和雑貨</p> <p>株式会社 表現社</p> <p>〒602-0861 京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354 http://www.hyogensha.net/</p>
<p>お茶会・式典・作品展 など イベントのお手伝いは弊社へ</p>  <p>イベント設営・レンタルの京老舗 有限会社 テラオ貸物店</p> <p>〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5 TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474 E-mail office@terao-rental.com URL http://www.terao-rental.com</p>	<p>式典写真、風景写真など あらゆるニーズにおこたえます！</p> <p>柴田明蘭 写真事務所</p> <p>(公益財団法人) JPS 日本写真家協会 会員</p> <p>☎ 090-8387-7735 FAX 075-311-9369</p> <p>〒615-0057 京都市右京区西院東長町24 シェルブリュー四番 603</p>

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p>	 <p>〒604-1835 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二二一三三八七二</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園 (株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾 治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p>  <p>澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>☒ 後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730 http://www.yasuda-nenju.com/</p>



大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理

植昭 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

金沢本社社屋 東京本社社屋

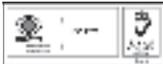


なくてはならない印刷会社を目指して—

ヨシダ印刷グループは、グループ各社の連携を基盤として、情報伝達と業務改善に関する「なくてはならない」製品・サービスを提供することで、お客様の発展と新しい社会の実現に貢献します。

ヨシダ印刷株式会社 関西支店

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3 新大阪サンアールビル北館10F
TEL.06-6305-7888 FAX.06-6305-7300 URL <http://www.yoshida-p.jp/> 【営業所・工場】 富山・金沢本社・江東潮見
【金沢本社】 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141(代) 【東京本社】 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)



情報セキュリティマネジメントシステム
ISO27001:2013



日本水なし印刷協会
認可工場 (環境安全対策)



JAPAN
COLOR
標準印刷認証
ヨシダ印刷株式会社
金沢本社工場
江東潮見工場



 温故知新を織る……

株式会社 **龍村美術織物**
URL: <http://www.tatsumura.co.jp/>

関西店 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通御池下る柳八幡町65番地
京都朝日ビル2階
TEL (075) 211-5002 FAX (075) 211-5305

関東店 〒104-0031 東京都中央区京橋2-9-1
八重洲中央ビル5階
TEL (03) 3562-1212 FAX (03) 3562-1230

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇

株式会社 **佛光堂**

〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075) 351-4092 FAX(075) 351-7231

大本山相国寺御用達
京都市指定
有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備 ● ポーリング井戸 ● 消火栓設備
- 庭園池の濾過設備 ● お墓の雨水処理 ● 設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998



www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薫々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店

ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO



世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…

京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

京都銀行

JTB

感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店

〒600-8421 京都市下京区橋小路通丸西入直待香町 167 ANA 四条西丸ビル 2F
TEL:075(284)0173 FAX:075(284)0153
(営業時間 9:30~17:30 / 土・日・祝日休業)

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com
<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

毎月15日・23日は

三菱UFJ信託銀行の個別相談会 無料
予約制

毎月15日は 遺言の日
毎月23日は 不動産の日

三菱UFJ信託銀行 京都支店 お申込みはこちら 電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)
TEL. 075-211-7168 京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶農林水産大臣賞30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃翠

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2330909
・シェイアル京都伊勢丹店 地下一階
・京都高島屋店 地下一階 和菓子売場
【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934番 振替京都 01090-4-3476

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuishuzo.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6 電話 075 (771) 0246



鮎割烹
たつみほし
祇園 白川 舞橋畔
静かな佇まいに
せせらぎを聴く

〒605-0084

京都市東山区八坂新地清本町371番地4

電話 (075) 531-1184

営業時間 17:30-22:30(LO.21:30) 定休日:水曜日

相国寺
東京別院
施工

www.mizusawa-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区木場5丁目6番地1号 TEL 03-3641-7111



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL **075-415-0100** FAX 075-415-0089

〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1 キョウテク北大路ビル2F

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国会会員の皆様をはじめ本派各ご寺院、関係各位におかれましては、ご息災のことと存じます。今夏も『円明』第110号が出来上がりましたので、どうぞご覧ください。又、6月18日に発生した大阪北部地震とその余震、さらに、7月初旬には東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地方など西日本を中心に広範囲で、過去に例を見ない記録的な大雨が続き、甚大な土砂・洪水・浸水災害が発生し、死者行方不明者が多数出る事態になりました。被災された方々にはお見舞い申し上げます。

◇毎号連載を頂いております小林玄徳老大師の「仏道定款」をはじめ、金閣寺に伝わる精進料理、相国寺庭園連載記事などをご寄稿頂きました諸氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

◇相国会では2年に1度の本山におきまして、「相国会本部研修会」を開催しております。今回は11月6日・7日に開催致します。坐禅をはじめ、日常生活では味わうことが少ない寺での厳粛な修行体験をしていただきます。後日参加者を募集しますので、ご希望の方は菩提寺の和尚様を通じて、奮ってご参加ください。

◇本年は、朝鮮半島の南北両国の会談をはじめ、史上初の米朝による首脳会談が開催されるなど、周辺諸国による緊張感ある駆け引きなどが続いておりますが、核問題、テロ、国家間対立などをはじめ、世界の政治や経済の動向は絶えず変化しております。仏教では、仏道は仏心があればこそ成されると思いますが、他の民族や宗教との友好にも大いに役立てることが出来るはずです。常々、管長猥下が申される様に「今こそ仏教の出番」。和合をはかるためにも、まずは身近なところから一人一人が精進を重ねたいものです。

◇お盆を迎え、施餓鬼会法要にご参列の皆様も多いと思います。施餓鬼会は、釈尊に教えを請い、寿命を延ばすことのできた阿難尊者の説話にもとづく行事であり、その求めに応じて釈尊が示された修法が施餓鬼会のはじまりとされています。

そして餓鬼だけでなく、新亡の霊や先祖代々、有縁無縁の諸精霊を供養し、また同時に皆さん自身の福德延寿を願う行事として発展して参りました。ぜひこの施餓鬼会の機会に、御先祖様のお里帰りを皆様で気持ち良くお迎えし、自他ともに救われる功德を積んでいただきたいものです。

残暑厳しい折、どうぞ御自愛ください。

(矢野謙堂 記)

えん みょう
円明 平成30年夏号(第110号)
平成30年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

人と自然をつなぐ、伝統と革新をつなぐ。

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

竹中大工道具館(兵庫県神戸市)
設計施工:竹中工務店

株式会社 竹中工務店

DNP

歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

未来のあたりまえをつくる。

日本印刷株式会社

相国寺 秋の特別拝観

京都今出川 鳴き龍の寺

平成30年9月25日(火)～12月15日(土)

※10月18日(木)～21日(日)は、開山忌法要のため拝観を休止いたします。
※10月3日(水)、4日(木)、5日(金)、12月8日(土)は法要・行事のため
拝観時間に一部変更があります。

拝観時間：午前10時～午後4時

拝観場所：**法堂**・**方丈**・**開山堂**

拝観料：一般・大学生 800円 / 65才以上・中高生 700円

はつとどう ほうじょう かいさんどう

※団体割引有り

※行事・法要のため予告なく拝観休止または拝観場所・
拝観時間を変更することがあります。



法堂内部「蟠龍図」



開山堂の紅葉と法堂

宝物
拜見

大瀑布図 円山応挙筆

江戸時代(安永元年・一七七二)
重要文化財 相国寺蔵

紙本墨画淡彩 三六・一八×一四三・八cm

巨軸に描かれた大滝。どれほどの量の水をたたき落すというのだろう。松樹と共にせせり出す崖の奥に滝壺がみえる。流水の轟音と立ち上がる水煙。やがて荒ぶる水も美しい波紋へと姿を変え、画面下方前方へと流れてくる。その波のなかに「壬辰孟夏応挙」の落款が記される。これは江戸時代中期の画家・円山応挙(一七三三―九五)が、壬辰すなわち安永元年(一七七二)の夏の初め、陰暦の四月に描いた大瀑布図。時に応挙四十歳。滋賀県大津市の円満院ゆかりの作品である。円満院の門主祐常は三十代の応挙を支えた人物だった。避暑の為に、応挙の絵筆を求めた。門主が亡くなる前年に誕生したこの図は二人の出会いの総決算であり、また応挙の写実の画風が確立した時期の記念碑的な作品と位置づけられる。のちに奇想の時代と名付けられ、伊藤若冲が動植綵絵を描いたほぼ同時期に、応挙は徹底した写実の絵筆によってまるで現実がそこにあるかのような絵画世界を創った。

門主祐常は本図を、円満院の園庭の松樹に懸けて眺めたと伝えられる。滝のなかった庭に、細やかな水しぶきと清涼の風が吹き渡った――

作品解説／承天閣美術館 副館長・学芸統括

高橋範子

※この作品は、次回展覧会「温故礼讃―百花繚乱・相国寺文化圏―」でご覧いただけます。

承天閣だより

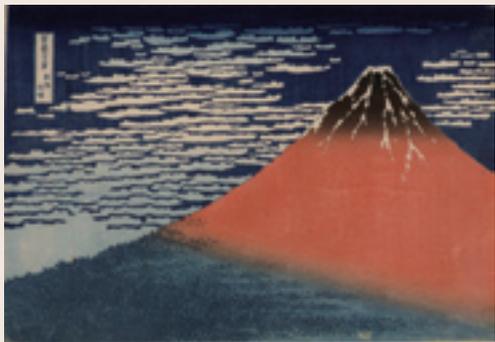
Jotenkaku Museum

「サンタフェリー・ダークスコレクション」

「浮世絵最強列伝〜江戸の名品勢ぞろい〜」展

Popular Impressions: Japanese Prints from the Lee E. Dirks Collection

- 会期 前期：7月3日(火)～8月5日(日) 後期：8月8日(水)～9月30日(日)
- 休館日 8月6日(月)、7日(火)



富嶽三十六景凱風快晴 葛飾北斎 後期展示 © Lee E. Dirks Collection



米国サンタフェ在住のリー・ダークス氏は、空軍士官として日本に駐留したのを契機に日本文化に関心を持ち、浮世絵版画の名品を収集してきました。本展覧会では、浮世絵の祖・菱川師宣、美人画の喜多川歌麿、役

者絵の東洲斎写楽、そして葛飾北斎や歌川広重など代表的な浮世絵師の優品を集めたダークス氏のコレクションを公開します。

主催 相国寺承天閣美術館、
日本経済新聞社、京都新聞
後援 米国大使館
協力 日本航空、MBS

次期展覧予定

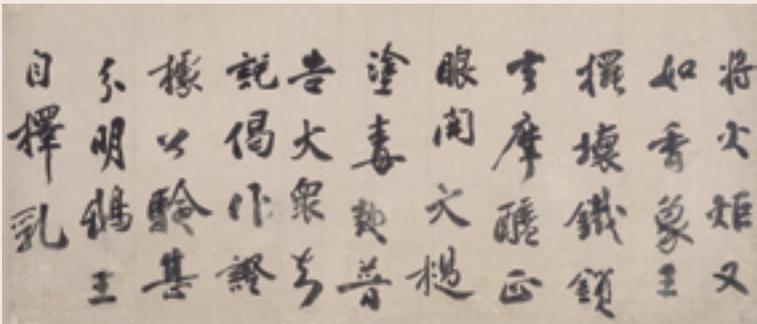
「温故礼讚—百花繚乱・相国寺文化圏」

- I 10月13日(土)～12月24日(月) 振休
- II 2019年1月13日(日)～3月24日(日)



足利義満像 飛鳥井雅縁和歌賛(部分) 室町時代 重要文化財 鹿苑寺蔵

国宝、重要文化財を中心に、承天閣美術館所蔵の名品群をとおして相国寺文化圏の百花繚乱なる美の流れを展観します。



無学祖元墨蹟 与長楽寺一翁偈語 四幅の内 鎌倉時代 国宝 相国寺蔵



鳴鶴図 文正筆 双幅の内 明時代 重要文化財 相国寺蔵

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイシ
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工 場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 電話(075)702-2440
(洛北病院バス停前)
夜 間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



額字の「方丈」は、中国南宋の書家張即之筆と伝えられ、その額字原本は東福寺の所蔵(国宝)である。

相国寺夏恒例の「暁天講座」 方丈で行う坐禅

心こころのすがた
八風吹不動
八風吹けども動ぜず
(寒山詩・禅林類聚ほか)
不動心。動じない精神力。常に冷静さを失わない心。

